第百十四師団野戦病院部隊略歴

部隊長　病院長代理　陸軍々医大尉　金江　孟

年月日	概要
昭一九、七、一〇	編成完結の状況
八、一	病院は軍令陸甲第七十九号により第六十九師団野戦病院長編成担任官となり
一〇	中華民国山西省岡喜県東鎮に於て編成に着手
一七	編成完結第一半部（主力）は
	盛県に前進、同地に病院を開設し患者の収療に任ぜり
	行動の概要
八、一三	一一四師野病作命第二号別冊により第二半部を曲沃県候馬鎮に病院（第二半部）河津県河津及離石県離石に各々患者療養所を開設患者の収療に任ず
一〇、一五	在候馬鎮病院を新絳に前進し候馬鎮に患者療養所を開設す
二〇、四、一四	在馬鎮患者療養所を萬泉県萬泉に前進療養所を開設す
八、	終戦と同時新絳第二半部河津萬泉療養所を撤収、本部に復帰離石患者療養所八平遙に前進、同地に患者療養所を開設す。
九、二〇	主力は太谷県太谷に前進を命ぜられ徒歩行軍を以て出発
一〇、一	太谷に到着病院を開設す

1899

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、二、一　主力は榆次保榆次に前進を命ぜられ列車輸送に依り一部を太谷に残置し榆次に前進

二、一八　第百六十二兵站病院より業務継承診療業務を開設す

四、一八　平遥患者療養所を閉鎖榆次本部に復帰す

四、二三　内地帰還の為病院を閉鎖し帰還の準備し

五、二　榆次出発

五　天津着

一四　塘沽出発

一七　佐世保に入港

二〇　浦頭に上陸す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六百十四師団野戦病院の一部部隊略歴

部隊長　陸軍少佐　熊谷俊夫

年月日	概要
昭三、四、六	陸軍伍長大竹留五郎、遺骨護送員として山西省榆次県榆次を出発、部隊主力と分離す
四、三	塘沽出帆
二九	佐世保に上陸
	同日遺骨、遺留品を六百十四師団司令部陸軍少尉菅野光久に委託し任務終了後帰郷す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支二六内

六百十四師団野戦病院の一部部隊略歴

部隊長　陸軍々医大尉　金江　孟

年月日	概要
	部隊の編成概要
昭二、五、一〇	部隊は天津より主力と分離し若松大尉以下六〇名
六、一七	内地帰還の為塘沽港出帆
	仙崎港上陸す
	編成人員　将校一　下士官九　兵五〇　計　六〇名
五、一九	加藤曹長は二日市復員本部に至り残務整理を実施し
五、二三	之を終了し関係書類を依托し帰郷す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六百十四師団病馬廠部隊略歴

部隊長　陸軍獣医大尉　城地実栄

年月日	概要
昭一九、	編成完結の状況
	昭和十九年軍令陸甲第七十九号により山西省運城第六十九師団病馬廠長編成担任官のもと第百十四師団病馬廠の編成に着手
八、一〇	編成完結す
	行動の概要
自一九、九、一八 至一九、九、二九	浮山周辺作戦参加
	行動地域、臨汾―候馬鎮―浮山―候馬鎮―臨汾
自一二、一七 至一二、二六	平汾東方地区作戦参加
	行動地域、臨汾―平遥―介休―王和鎮―平遥―臨汾
	部隊主力と分離後の行動
二一、四、三一	輸送第一一三大隊に所属し輸送指揮官五十嵐大尉指揮の許に内地帰還のため天津貨物廠出発の際、戦争犯罪容疑者として米国側に抑留せられ、
五、五	釈放せられ

北支 二六外

1903

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、七　輸送第一二九大隊編入輸送指揮官新庄大尉の指揮を受け

五、一〇　塘沽出帆

五、一七　佐世保上陸、復員す。

1904

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第三旅団司令部部隊略歴

部隊長　陸軍少将　山田三郎

年月日	概要
昭一三、三、二七	編成完結の状況 軍令陸甲第九号に依り北京西苑に於て編成完結し北支那方面軍の戦斗序列に入らしめらる 其の編合左の如し 旅団長　陸軍少将　佐々木到一 旅団司令部 独立歩兵第六乃至第一〇大隊（五大隊） 砲兵隊（野砲一中、山砲二中） 工兵隊（一中） 通信隊（一中） 右の要員は関東軍独立守備隊の約五百名を基幹とし第五師団及第十一師団より転属せしめられたる兵員を以て概ね定員を充足する。 行動の概要 編成完結後北京に於て訓練及装備の充実を図りたる後第一軍の戦斗序列に入

1905

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、七	らしめられ京漢沿線（石家荘―彰德間）警備の為北京出発同地区に南下せり
	旅団司令部は順德に位置し各大隊は夫々鉄道沿線主要県城に分駐し周辺の警備に任ぜり、
一四、一、	第一軍の作戦地域を山西省内に変更せられたるに伴い旅団は北部山西省（内長城以南―太原含まず以北）の警備を命ぜられ
一、一三	移駐を開始し北京、大同を経て
二、末旬	之を完了せり、旅団司令部は崞県に位置し各大隊は夫々主要県城に駐屯し、
	爾後終戦に至る迄同地区に在り
二〇、八、	終戦後武装解除せられたる後引続き同地区に在りて現地自活の方途を講じつつ専ら復員準備を進めありて
二一、四、一八	以降逐次復員輸送を開始し北京、天津を経て、
五、二三	仙崎に上陸（一部は佐世保、博多）し、復員せり
六、四	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第三旅団司令部部隊略歴

部隊長　陸軍少将　山田三郎

年月日	概要
自昭二一、五、一六	部隊主力と分離後の行動
五、一八	北支那方面軍天津連絡部要員として勤務中
五、二〇	勤務を免せられ輸送門司第百四十大隊指揮官矢木野少佐の指揮を受け
五、二七	塘沽港出発
	佐世保上陸、復員す
	陸軍大尉　宇多良英　外四名
	申送り
五、二八	関係書類整備完了し佐世保人員班に預託、帰郷す

1907

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第三旅団司令部部隊略歴

部隊長　陸軍少将　山田三郎

年月日	概要
	部隊主力と分離後の行動
昭二、一、三〇	部隊出発糸後天津に集結、華北派遣憲兵隊と共に@〇7/号に乗船輸送指揮
	官城所中佐の指揮を受け
五、六	塘沽港出発
五、一三	佐世保に上陸
	復員時に於ける事故者左の如し
	陸軍憲兵兵長中野東は天津出発時米国側戦犯容疑者として保留せらる
五、一三	申送り
	関係書類の整理を完了し佐世保出張所人員班に依託帰郷す
	陸軍憲兵兵長　三浦正二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第三旅団司令部部隊略歴

指揮官　陸軍曹長　前田秀徳

年月日	概要
	編成の概要
	部隊名　独立混成第三旅団司令部　七名
	独立歩兵第六大隊　一五名
	〃　第七　一四名
	〃　第八　八名
	〃　第十　七名
	独立混成第三旅団砲兵隊　一三名
	〃　工兵隊　八名
	第一九六兵站病院　一名
昭二、一、三〇	炭砿労務要員として帰還のため原平鎮に集結
二、一〇	第四独立警備隊陸軍大尉島田幸治の指揮下に入らしめらる
	行動の概要
二、一五	太原出発
二、一九	天津着、貨物廠に入廠

1909

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、七	同厳出発、同日塘沽出帆
三、一一	佐世保港入港
三、一三	上陸、旧針尾海兵団に入所、同日復員
	特記
三、一七	一、石太線、保定站――滹河站間に於て中国軍人の襲撃を受け独立混成第三旅団工兵隊一等兵藤本武行方不明となりたる為直ちに豊台勤務隊及方面軍に連絡捜索方依頼せるため
三、二四	第十一戦区より豊台勤務隊に引渡さる。目下分隊に於て輸送連絡あり次第至急帰還の予定なり
	二、天津に於て独立歩兵第八大隊兵長山本一男戦犯容疑者として米国側に抑留さる。
	総員　七五名
	内地除隊召集解除　七三名
	残留者　二名
	陸軍大尉　三浦小太郎
	陸軍伍長　五十嵐美中
四、二六	右二名は派団先遣要員として塘沽出発
五、四	仙崎上陸

1910

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、五、五	二日市復員本部に到着す
五、八	支那派遣軍復員本部に所要の連絡を終了 夫々帰郷を命ぜらる。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第三旅団司令部部隊略歴

部隊長　陸軍少将　山田三郎

年月日	概要
昭三、三、二六	先任者技手坪内嘉雄以下二五名帰還の国命を以て崎県出発、部隊主力と分離す
三、四、一三	業務手事務雇員永井浅一事務雇員渡辺辰雄の二名、戦犯容疑者として田村要助（家族入院のため）天津に残留す
四、一四	技手坪内嘉雄以下二二名はLST に依り塘沽出航
四、二一	佐世保上陸、異状なく帰郷せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第三旅団の一部部隊略歴

年月日	概要
昭三、四、六	部隊は独立混成第三旅団隷下部隊の四月以降の戦没将兵の英霊護送の為陸軍大尉渡辺淳指揮を以て太原出発
四、一〇	天津に到着す
四、二一	塘沽乗船、
四、二二	塘沽港出航
四、二六	佐世保港着
四、二九	佐世保上陸、同地支那派遣軍復員本部出張所と連絡護送員は夫々護送部隊の編成を解き帰郷せしむる準備を実施
四、三〇	佐世保出発護送員は夫々帰郷せしむ
四、三〇	増村中尉の指揮を以て残務整理並に英霊受授の為二日市支那派遣軍復員本部に到着
五、二	同日遺骨並に遺品の授受を完了す 残務整理完了せり、堤一等兵帰郷せり 遺骨護送員部隊別人員左の如し 独立混成第三旅団司令部　三

1913

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第六大隊	一〇
独立歩兵第七大隊	一九
独立歩兵第八大隊	一八
独立歩兵第九大隊	七
独立歩兵第十大隊	二五
独立混成第三旅団砲兵隊	四
〃 工兵隊	二
〃 通信隊	一
計	八五名

1914

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一軍独立歩兵第六大隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　佐々木義己

年月日	概要
	編成完結の状況
昭一三、三、二七	昭和十三年独立混成第二乃至第五旅団編成要領に基き第五師団及び満州独立守備隊、支那駐屯歩兵聯隊より差出されたる編成要員を以て、北京郊外西苑に於て其の編成を完結す
	行動の概要
四、	編成完結後、河北省順德附近に移動準備を為し順德附近に移駐、該地附近の鉄道警備を第十六師団より継承し粛正警備に任ず
一四、一、一三	北部山西省の治安粛正を命ぜられ、該地警備を第十師団に引継ぎ山西省繁峙県に移駐、第百九師団より同地附近の治安粛正の任務を継承し、爾後該任務を続行中
二〇、八、一四	停戦下令に依り任務を解き引続き同地に駐屯
二一、四、	部隊を山西省崞県並に集結、爾後列車輸送に依り太原―石門―豊台は天津を経て
五、七	塘沽出帆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、一四　佐世保に上陸

五、一五　同地に於て独立歩兵第六大隊の編成を解く（同日佐世保に於て陸軍大尉佐々木義已以下四六名除隊百集解除す）

兵力

入院　八八名

生死不明　二一名

死亡者　四一名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第六大隊部隊略歴

部隊長　陸軍少佐　笹沼　伝

年月日	概要
昭二、四、二九	部隊主力と分離後の行動
五、五	天津海光寺矢舎勤務要員として残留中の処
五、一〇	解除となり輸送一二九大隊指揮官新庄大尉の指揮を受け
五、一七	塘沽港出発
	佐世保上陸、復員す
	陸軍少尉　坂口平一郎
五、一七	申送り
	関係書類の整理を完了し佐世保出張所人員班に依託帰郷す

1917

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支三〇内

独立歩兵第六大隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　佐々木義巳

年月日	概要
昭二、五、一	検疫班勤務の為天津に残留中の処
五、八	勤務交替輸送第百三十一大隊指揮官久枝大尉の指揮を受け
五、二	塘沽港出発
五、九	佐世保上陸、復員す
	陸軍々医大尉　高城　忠　以下十四名
	申送り
五、一九	関係書類の整備を完了し佐世保出張所人員班に預託帰郷す

1918

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一軍独立歩兵第七大隊部隊略歴

部隊長　陸軍少佐　岡田重光

年月日	概要
	編成完結の状況
昭一三、三、二七	昭和十三年独立混成第二乃至第五旅団編成要領に基き満州独立守備隊支那駐屯歩兵聯隊及第十師団歩兵第十一聯隊及歩兵第四十一聯隊補充隊より差出されたる編成要員を以て北京郊外西苑に於て其の編成を完結す
	行動の概要
	編成完結後山西省太原に移駐を準備
四、六	北京発石家荘に於て待機中京漢線の警備を命ぜられ
四、一六	高邑県に移駐し同地附近の警備を第十六師団より継承す
一四、一、	北部山西省の治安粛正を命ぜられ警備を第十師団に引継ぎ
一、三一	山西省崞県軒岡鎮に移駐第百九師団より同地附近の警備任務を継承す
九、五	寨県附近を粛正同県城に進駐同地附近を警備
二〇、四、	同地附近の警備を撤し繁峙県繁峙に駐屯同地附近を警備中
八、一四	停戦下令
一〇、	軒岡鎮に移駐復員待機

1919

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、四、一九　復員帰還のため軒崗領出発
四、三〇　天津着
五、六　乗船
五、七　塘沽出発
五、一三　佐世保港上陸、同日復員完結す
尖力
帰還復員人員　六三〇名
入院　八五名
生死不明　二五名
死亡　三一三名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第三旅団第七大隊部隊略歴

部隊長　陸軍少佐　岡田重光

年月日	概要
昭二一、五、五	部隊主力と分離後の行動 天津に於て陸軍衛生上等兵樋口幸一ノLST第組指揮班第一六八班要員を命ぜられ部隊主力
五、九	天津出発、同日指揮班として塘沽に於てLSTQ〇七六第船
五、一六	佐世保上陸す 復員時に於ける事故者　なし 陸軍衛生上等兵　樋口幸一
五、一七	申送り 関係書類の整理を完了し佐世保出張所人員班に依託す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支三一内

第一軍独立歩兵第八大隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　常延清九郎

年月日	概要
	編成完結の状況
昭一三、三、二七	昭和十三年独立混成第二乃至第五旅団編成要領に基き満州独立守備隊支那駐屯歩兵第隊及第十師団歩兵第十聯隊補充隊より差出されたる編成要員を以て北京郊外西苑に於て其の編成を完結す
	行動の概要
四、一六	編成完結後石家荘附近に移動準備をなし
一四、一、	邯鄲附近に移駐し京漢線地区の警備を第十六師団より継承し其の任に就き
一、三一	北部山西省の治安粛正を命ぜられ警備を第十師団に引継ぎ
	山西省代県に移動第百九師団より同地附近の治安粛正任務を継承し旅団命令に基き独立歩兵第六大隊と警備交代し
一五、六、三	山西省五台県附近に移駐し同地附近の治安粛正の任務を独立歩兵第三十六大隊より継承し五台県附近の治安粛正警備勤務に従事、爾後該任務を続行中
二〇、八、一四	停戦下令を受け部隊を集結すると共に
九、二一	山西省定襄県に移動し復員を待機しありたる所

1922

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支三一外

年月日	概要
昭三、四、二〇	復員のため該地出発
四、二八	天津到着
五、五	天津出発、塘沽港に於て乗船
五、九	佐世保沖に到着
五、一二	佐世保に上陸す
五、	復員完結
	兵力
	帰還すべき人員　六〇二名
	入院　一二八名
	生死不明　二七名（内、本土兵要一〇名、陣中逃亡一五名
	死亡者　二八一名　朝鮮初年兵受領員二名）

1923

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第八大隊部隊略歴

部隊長　陸軍少佐　常延清九郎

年月日	概要
昭二、五、七	部隊主力との分離後の行動
五、一四	マラリヤ四日熱のため臨時天津兵站病院に入院
五、二一	戦犯容疑の為天津に残留中の処
五、二八	解放となり
五、三九	退院す
六、六	輸送（LSTタイー）ハ号大隊指揮官八十軍医大尉の指揮を受け塘沽港出発
	佐世保上陸、復員す
	陸軍一等兵　山本宰吉
六、六	申送り
	関係書類の整備を完了し佐世保出張所人員班に預託帰郷す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第三旅団独立歩兵第八大隊部隊略歴

部隊長　陸軍少佐　常延清九郎

年月日	概要
昭二、五、二	天津に於て陸軍衛生兵長星行雄以下二名LST第四指揮班等一六八班要員を命ぜられ部隊主力と分離
五、九	天津出発、同日指揮班として塘沽に於てLSTQ〇七六第船
五、一六	佐世保上陸す
	復員時に於ける事故者　なし
	陸軍衛生兵長　星　行雄
五、一七	申送り
	関係書類の整理を完了、佐世保出張所人員班に依託す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支三二内

第一軍の一部造第三五八四部隊略歴

年月日	概要
昭二、三、二一	山西省太原出発、隊長新村大尉以下十二名内地帰還の目的を以て行動す
四、一一	十二名中三名戦犯容疑者として天津に残留し斉藤善四郎上等兵、三宅誠下兵は天津出発、同日LSTにより塘沽出航帰郷す
四、一九	山口県仙崎港に上陸、夫々異状なく帰郷す
四、二〇	新村大尉は残務整理者として事務処理に任じ任務終了後帰郷す
	新村大尉以下軍命に依り現地除隊し爾名の上軍属として帰還せるものにして上陸後本名に改め帰郷す
	山田（本名橋本清九郎上等兵）は残留せるも十日位遅れて帰還の予定
	新村大尉以下十二名とは
	軍司令部　二名
	独混三旅六大隊　二名
	〃　八大隊　三名
	独歩十旅二二八大隊　五名

1926

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第九大隊（造第三五八五部隊）略歴

指揮官　陸軍大尉　東海林　義　信

年月日	概要
昭一三、三、二七	中華民国河北省北京西苑に於て独立歩兵第九大隊は編成を完結す 当時初代部隊長左の如し 陸軍中佐　柳　勇
四、	部隊は西苑附近に在りて主として教育訓練に任じ見るべき戦斗なし 部隊は河南省武安県武安に移駐を実施爾後同地附近の警備勤務に従事す 同地警備中に於ける主要戦斗左の如し 河南省武安県和村附近の戦斗
一四、二、八	〃　邑城附近の戦斗 部隊は山西省崞県原平鎮に移駐を実施し、爾後同地附近に在りて警備勤務に従事す
四、	第二代部隊長左の如し 陸軍中佐　太田熊太郎
八、	第三代部隊長左の如し 陸軍中佐　西畑敬爾

1927

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一六、五、	部隊主力は中原会戦に参加す
一七、九、	第四代部隊長左の如し 陸軍中佐　酒井勝利
一九、五、	部隊主力は西北河南作戦に参加す
六、	第五代部隊長左の如し 陸軍中佐　宇田川当蔵
二〇、四、	第六代隊長左の如し 陸軍大尉　相楽圭二
二一、三、	第七代部隊長左の如し 陸軍大尉　東海林義信
二〇、八、一四	終戦時より帰還迄の概要
八、一八	停戦詔書発布
九、二	復員下令
九、二〇	停戦協定締結 兵器接収完了 終戦時大隊駐屯地附近に於ける土匪の蠢動は概して沿岸なりしも逐次低調となり見るべき戦斗なし 中国側に対し被服糧秣建造物其の他需品の接収を実施し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、四、二二	之が完了
二四	大隊は復員帰還の為鉄道輸送により屯営地杭梁を出発
	同日山西省陽曲線太原着
	太原に於て独立混成第三旅団独立歩兵第七大隊長陸軍少佐岡田重光の指揮に入り輸送第二十八大隊と呼称す
	爾後輸送第二八大隊長の指揮の下天津に向い前進し
五、一	天津貨物廠内に到着す
	天津より乗船の為更に編成替を実施し、当大隊は独立混成第三旅団工兵隊長陸軍大尉今田一雄の指揮に入り輸送第一二五大隊と呼称す
五、七	天津貨物廠を出発、同日塘沽に於てLSTQ〇九五号に乗船、同日出帆、
五、一二	佐世保港沖着
五、一四	佐世保上陸に到る
五、一五	大隊は佐世保に於て復員式を実施す
	兵力
	現兵力　総員　一七六一名
	生死不明　一五名
	入院　九五名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支三三内

入監　三名
転属　八二四名
死亡　四五名
内地除隊者　七〇九名
現地〃　七〇名
現在員　八二二名

1930

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第三旅団独立歩兵第十六隊部隊略歴

年月日	概要
	歴代部隊長名
	陸軍大佐　北條藤吉
	陸軍中佐　木庭大
	陸軍大佐　村田宗太郎
	〃　清水圓
	陸軍中佐　神田兼之助
	〃　山崎義勇
	陸軍少佐　松村貞雄
	編成完結の状況
	大隊は昭和十三年北支那北京西苑に於て編成を下令せられ
三、一〇	編成に着手
三、二七	関東軍支那駐屯軍及歩兵第四十二聯隊補充隊要員を基幹として其の編成を完結す
	行動の概要
	大隊主作戦地（警備地）左の如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自一三、四 至一四、一	河南省彰德県彰德附近	
自一四、二 至一九、二	山西省寧武県寧武附近	
自一九、三 至二〇、三	〃 岢嵐県東村鎮附近	
自二〇、四 至二〇、八	〃 静楽県静楽附近	
自二〇、九 至二一、四	〃 陽曲県黄寨鎮附近	
	終戦後の行動	
二〇、九、一九	笑力を山西省陽曲県黄寨鎮附近に集結し復員を準備す	
二一、三、三一	増村中尉以下二五名還送、遺骨一二一柱を奉持し黄寨鎮出発復員せしむ、	
四、一〇	杉本中尉以下九九名が一次復員者として第四独立警備隊の指揮に入らしめ黄寨鎮を出発せしむ。	
四、二二	大隊主力は内地帰還のため黄寨鎮出発太原に集結す	
四、三〇	太原に於て輸送第三一大隊主力として鉄道輸送に依り大原出発	
五、三	天津貨物廠に到着す	
五、一六	天津連絡部勤務者三十二名抑留者中村大尉以下十六名を残置し、輸送	
五、一七	輸送船塘沽出帆	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、五、二七	佐世保埠頭に上陸 同日復員す

1933

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一軍独立混成第三旅団砲兵隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　小黒沢信吾

年月日	概要
昭三〇、四、一五	軍令陸甲第十八号により独立混成第三旅団司令部独立歩兵第六大隊、第七大隊、第八大隊　第九大隊、第十大隊、第六十九師団　第百十四師団、騎兵第四聯隊、独立歩兵第百四十大隊、自動車第二十七聯隊、電信第九聯隊、北支那野戦貨物廠、歩兵第四聯隊より差出されたる編成要員を以て独立混成第三旅団砲兵隊編成に着手
四、三〇	山西省崞県原平鎮に於て編成完結す
	行動の概要
	編成完結日より山西省崞県原平鎮に於て同地附近の治安維正警備勤務に従事
	爾後諸任務を続行中
八、一四	停戦詔書拝賜
八、一八	復員下令
二、四、九	内地帰還のため部隊集結し、警備地出発
四、一五	天津貨物廠に至り天津連絡部命令により
自四、一八 至五、二	塘沽勤務隊勤務

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、五、七	天津出発
	同日塘沽出帆
五、一二	佐世保埠頭入港
五、一四	上陸

1935

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一軍独立混成第三旅団工兵隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　今田一雄

年月日	概要
昭二〇、四、一五	編成完結の状況
	昭和二十年二月一日軍令陸甲第十八号により独立混成第三旅団工兵隊編成下令せられ
二〇、四、三〇	山西省崞県に於て編成完結す
	行動の概要
	編成完結後崞県地区の警備に任しありたる時
八、一四	山西省崞県に於て停戦詔書拝賜
八、一八	復員下令を受け
九、二	山西省忻県に移動し復員を待機しありたる処
二、四、一〇	該地出発
四、一七	天津到着
五、七	天津出発、塘沽港に於て乗船
五、二一	佐世保に到着
五、二四	佐世保に上陸す

1936

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第三旅団通信隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　玉手文一郎　少佐
浩田八郎 (33才)

年月日	概要
昭一三、三、二一	昭和十二年軍令陸甲第九号により中華民国河北省北京に於て編成
	軍令陸甲第九号に基く新設部隊要員を以て編成し定員部隊長以下一七五を充
	足し主任務は有無線に依る旅団内の通信連絡なるも編成時は新編成にして装
	備及運営は約一ヶ年の教育を要する程度なりたり。
	行動の概要
自三、五 至五、一三	北京に於て編成及教育
	旅団司令部と共に河北省順德に移駐し旅団内の有線及無線に依る通信連絡
自五、一四 至一四、六、二	山西省崞県に旅団司令部と共に移駐し前任務続行中終戦に至る
	終戦時より中華民国第二司令長官の管理を以て帰国輸送準備
自二〇、八、二一 至二一、四、二七	山西省崞県出発
五、一	大原出発
五、一七	塘沽港出帆
五、二七	佐世保上陸

1937

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六百十五師団野戦病院部隊略歴

病院長　畠中正純

年月日	概要
昭一九、八、一五	中華民国河南省鄭城県鄭城に於て編成
	病院編制と共に本部は河南省鄭城県蘆庄（鄭城東南約四粁）に位置し一部を以て蘆庄舞陽及確山に夫々患者療養所を開設す
二〇、三、	昭和十九年秋季豫南地区の討伐に当りては患者収療業務のため一部を派遣す
	豫鄂作戦発起せらるるに当りては主力を以て師団直轄となり一部を以て各派団作戦地域要地に進出随所に野戦病院（患者療養所）を開設し傷病者を収療す
九、	停戦に依り原駐地蘆庄に転進す
九、二	停戦協定締結
二一、四、九	内地帰還のため河南省鄭城県蘆庄を出発
四、三	上海出帆
四、三〇	仙崎港上陸

1938

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第十旅団司令部部隊略歴

部隊長　陸軍少将　板津直俊

年月日	概要
	編成完結の状況
昭一九、一、一〇	昭和十八年軍令陸甲第百十五号により満州国浜江省哈爾浜市に於て編成下令
一、一五	第二十八歩団司令部を基幹として該地に於て編成を完結す
	編成時に於ける部隊長並人員左の如し
	部隊長　陸軍少将　板津直俊
	人員
	将校（参謀一欠）　一九名
	准士官、下士官　三六名
	兵　一一〇名
	軍属（通訳生）　四名
	計　一六九名
	行動の概要
一九、二、一〇	北支那派遣の為満州国浜江省哈爾浜市出発
一四	中華民国山西省榆次県榆次到着、同地に於て第六十二師団と警備交代準備

1939

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、二九	山西省平定県陽泉に移駐し第六十二師団歩兵第六十三旅団と警備交代準備
三、一〇	警備交代を完了し第一軍司令官の隷下に在りて同日より同地に於て石太線両側地区の警備
二〇、五、一〇	右任務の侭山西省陽曲県太原に移駐
八、一四	山西省陽曲県太原に於て終戦となり爾来同地に在りて復員準備
二一、四、二七	復員の為山西省陽曲県太原出発
四、三〇	天津到着
五、五	天津出発、同日塘沽出帆
九	佐世保港入港
一二	佐世保上陸
一七	二日市復員本部に於て復員完結
	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1940

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二百二十七大隊部隊略歴

部隊長　陸軍少佐　矢水野弁二

年月日	概要
昭一八、一二、一〇	編成完結の状況
	軍令陸甲第一一五号に依り臨時編成下令
	主として福岡県及長崎県出身者を以て充足し予備役其の主力を占む
	編制の概要
	本部歩兵一五ヶ中隊通信隊歩兵砲隊（四一山砲三門）の七ヶ中隊より成る。
	編成担任官　歩兵第百十三聯隊補充隊長
	編成地福岡
一九、一、八	編成完結
	編成定員　一、四二七名
	行動の概要
	編成完結以降待命間教育（船舶鉄道輸送に関する教育実戦的野外戦斗教練精神要素の涵養就中国結の固城に重点を指向）
二、二八	三梯団に分れ博多駅出発、門司港出帆、山西省に輸送
二、二三	中華民国山西省平定県陽泉到着、独立歩兵第十旅団長陸軍少将板津直俊の隷

1941

北支三六内

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

下に入る

三、一　各警備地に分進任務継承

三、一〇　責任転移（石部隊田村大隊）

石太線両側地区の警備に任ず

当時に於ける兵力配備の概要

山西省盂県大隊本部ヵ四中隊歩兵砲隊の通信隊の主力

娘子関地区　ヵ二中隊

上社地区　ヵ一中隊

西煙鎮地区　ヵ三中隊

陽泉地区　ヵ五中隊

鉄道警備直接兵力として装

一〇、二　鉄道警備区間娘子関―測石

盂県平定県警備に対し旅団警備地区の拡大に伴い大隊に昔陽県の警備を加へられる

二〇、二、二　兵力の一部転出と配備変更に伴い旅団は警備地区内一部撤収に伴い昔陽県の警備を独立歩兵ヵ二二八大隊に移譲す

五、九　旅団司令部の太原移駐に伴い大体本部陽泉に移り盂県平定県及石太線警備の外更に陽泉要地の警備に任ず

1942

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、二、九	石太線警備を第五独立警備隊に移譲し山西省清源泉及文城県の警備に任ず
二、四、一四	内地帰還の為太原に集結
四、二七	軍命に依り鉄道輸送途上豊台に下車、豊台勤務隊長大江大佐の指揮に入り勤務
五、一三	豊台出発、天津到着
五、二〇	塘沽港出発
五、二七	佐世保上陸復員を了す
五、二九	大隊長副官書記計四、残務整理
追記二〇、四、八	宇都宮中尉以下一九〇名大原出発主力に先んじ内地帰還す 内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1943

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二百二十八大隊部隊略歴

部隊長　陸軍大尉　岩見新太郎

年月日	概要
昭一八、一二、一〇	軍令陸甲第百十五号に依り編成下令
一九、一、一	於福岡県久留米編成着手
一、八	編成完結
二、一二	北支那派遣の為久留米出発
二、九	満支国境通過
二、二一	山西省平定県陽泉着
二、二八	山西省和順県和順着
四、二八	山西省和順県和順撤収
四、二九	山西省昔陽県昔陽着
八、三	山西省昔陽県昔陽撤収
八、三	山西省平定県平定着
九、二四	山西省平定県平定出発
九、二四	山西省平定県陽泉着
一〇、四	山西省平定県陽泉出発

1944

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、一〇、六	山西省陽曲県太原着
二一、四、二七	内地帰還の為山西省陽曲県太原出発
四、二九	河北省天津着
五、五	河北省天津出発
五、五	塘沽出発
五、一二	佐世保上陸
五、二三	復員完結
	内地帰還時主力と分離し復員し、復員した一部部隊の略歴は省略す

1945

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二百二十九大隊部隊略歴

年月日	概要
	編成完結の状況
昭一八、一二、一〇	軍令陸甲第一一五号に依り独立歩兵第二百十九大隊臨時編成下令
一九、一、一〇	歩兵第二十三聯隊補充隊に於て編成完結
	大隊本部　三〇名
	一般中隊　二四九名（五ヶ中隊）
	歩兵隊　七九名
	通信隊　七四名
	計　一、四二八名
	部隊長官氏名
自一九、一、一〇 至二〇、五、一四	陸軍中佐　海野　精
自二〇、五、一五 至二一、五、一二	陸軍大尉　野口精一
	行動の概要
一九、二、一一	都城編成地出発
二、一三	門司港乗船出発

1946

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一九、二、一五	釜山港上陸
二、一八	安東通過
二、二〇	山海関通過
二、二二	山西省榆次着
自二、二三 至二、二四	石太線同線両側地区の警備並に討伐
自七、二五 至一〇、一〇	十九夏晉内肅正討伐戦
自一〇、二一 至一二、二	石太線同蒲線両側地区の警備並に討伐
自一二、三 至一二、三四	十九秋太行方二方三軍分区肅正討伐
自一九、二一、二五 至二〇、八、一三	石太線同蒲線両側地区警備並討伐
八、一四	停戦詔書発布
一〇、八	山西省太原に移駐
二一、四、二六	山西省太原出発
五、五	塘沽港出帆
五、一二	佐世保港上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

1948

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp